

サーキット・ライダー2005年 1月号

パークリッジ伝道10年

めいめいが、自分の重荷を担うべきです。御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と持ち物をすべて分かち合いなさい。思い違いをしてはいけません。神は人から侮られることはありません。人は自分の撒いたものを、また刈り取るようになるのです。・・・たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取るようになります。ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう。

ガラテヤの信徒への手紙 6:5-10.

新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。私は1995年の6月にパークリッジに赴任しましたので、今年の6月で10年目の区切りを迎え、7月からは11年目に入ります。英語の教会の牧師として不安と期待の内に始めた牧会、また91年末にリトル・フォールズで始めた日本語伝道も95年からパークリッジに移り、どちらもこれまで多くの方に祈り助けられ御奉仕してくる事ができました。皆様に改めて御礼申し上げます。

英語の教会は1909年に創立され昨年で95周年を迎えました。メソジスト教会は派遣制ですので、私の前にも多くの牧師がお仕えしてきました。私は25代目の牧師で、初めてのアジア人の牧師です。白人が中心の会衆の中には戸惑いもあれば、私の拙い英語説教に訝しがった方も多かったと思います。しかし皆クリスチャンの愛をもって私を立て育てて下さいました。とりわけ人生のかなりの時期をこの町で過ごした彼らは「ここは私の教会」「自分が神に仕える場」だから「自分が支える」という強い意識を持っています。ここ数年、高齢化が進み多くの教会員がニューヨーク州北部、ペンシルバニア州、フロリダ州などの物価が安い地方の老人コミュニティーやホームに移っていきましたが、彼らは今でもパークリッジの教会を愛し、時折手紙や献金を送って下さいます。こういった方たちはよその地へ移っても、必ずその地のメソジスト教会に通います。やがてその地で教会員になり、熱心に教会生活を続けます。また折あるごとに「自分はパークリッジ合同メソジスト教会の会員だった。これからもメソジストです。」と語ってくれます。残念ながら若い世代(30代~40代)アメリカ人にはこの意識はあまり無いように思えます。

10年目を迎えるに当たり、改めてパークリッジで守ってきた日本語伝道を振り返って見ると祝福をたくさんいただきましたが、同時に幾つか反省点も出てきました。当初日本語伝道の目的はこの地に短期、長期住む日本語を話す方々への礼拝の場、祈りの場、聖書の学びの場の提供、子供達の伝道教育をすること、教会作りではありませんでした。その為か、全般的に「私の教会」「私が教会を支える」という意識に欠けているように思います。勿論、日本人クリスチャンにも「自分の教会意識」はあると思いますが、上述のアメリカ人クリスチャンのような強い意識があるかどうか、ともすると他の地域に移った途端、同じ教派の教会に行っても適応できず教会生活を止めてしまったり、新しい教会に批判的に接するようになる方が多いように思います。本当に「私の教会」という意識がある方は、多少矛盾しているように聞こえるかもしれませんが、どこに行ってもその地の教会に「自分の教会」という意識を持って定着し、そこで神と人に仕えます。

私達の日本語伝道はパークリッジ合同メソジスト教会アメリカ人教会員のフル・サポートで成り立っています。日本語伝道は教会の建物維持、牧師給、オフィスの必要経費、冷暖房、光熱費など一切払っていません。毎月いくばくかの献金をしてはいますが、それはオフィスやチャペルを借りれるような額ではありません。このままアメリカ人に全てを出してもらって、それで何もしないでいては、私が他教会に移動した場合、日本語伝道は継続ができなくなります。そこで私は教会員、教会会友の皆さんに2005年の目標を掲げたいと思います。それは「**自分達で自立して日本語礼拝を守る**」です。「人数が少ないから教会作りはできない」「予算も立てられない」という意見もあるかもしれませんが、教会員が少ないなら少ないなりの予算を計上し、教会を運営していけば良い。増えれば、それに見合った予算を立てれば良い。要は考え方の問題であり、信仰の問題です。私はこの地に皆さんと共にいつまでも日本語で礼拝できる場を築きたい。ですから皆さんにも「私の教会」「自分達で教会を作る」という強い意識を持っていただきたいと思っています。自分で撒き、自分で刈り取る。収穫の時はそこまで来ています。 吉松 純

* 礼拝：午後4時。Jr.教会（教会学校）：午後4時時、礼拝に出席後、分級に進みます。

* 祈りたい方の為に礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。

* 聖日予定：

1月 2日：自由祈禱会、Jr.教会、聖餐式礼拝。礼拝後、餅つき大会。

9日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝。

16日：自由祈禱会、Jr.教会、ゲスト・スピーカー：浅田容子牧師。司会：荒美俊三兄。

23日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝。司会：荒美和子姉。

30日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝。

2月 6日：自由祈禱会、Jr.教会、聖餐式礼拝。

* 集会、行事予定と報告

21日（金）午後7時30分より、聖書研究会、日本語オフィス。旧約聖書、エズラ書。

28日（金）午前10時30分より、牧師館にて聖書の学び。新約聖書、ヤコブ書第二章。

* 御協力お願い致します。献金の宛名は UMC-JA でお願いします。

* インドネシア沖地震と津波の被害国への救援献金を始めました。現在、インドの教会及び被害者への直接送金及び被害の最も大きかったインドネシアへの送金を計画しています。ご協力お願いします。

* 新潟中越地震の被災者の方々への救援献金をお願いします。現地の教会を通して被災者の方へ送ります。

* ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

* 使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）に送ります。JOCsは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

* HOPE（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。

Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先をHOPEとしてください。

* 一昨年よりケニアの恵まれない子供達やエイズ患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾孝恵姉（201）802-1769 takae723@hotmail.com